京大URA報告
「京大の10年後の姿をイメージして」

04. 組織・制度の壁を越える
「RDP (Research Development Program)」

May 29, 2017

京都大学 学術研究支援室

園部 太郎

RDPとは

❶学内ファンドの設計・運営を通じて❷URA能力開発を一体的に取組、❸大学全体の研究力強化策の企画・立案支援を行うプログラム。

社会動向

学内研究者のニーズ

❶学内ファンド設計・運営

フェーズ❶
調査・分析

フェーズ❷
小規模・試行的制度

フェーズ❸
プログラム(RDP)

学内ファンド
（学内公募）

自己革新

現状

施策提案

❷URA能力開発

知識
ロジックモデルの普及
企画・運営・評価・改善スキル

実践（OJT）
学内ファンドの企画・運営・評価・改善を通じた相互研鑽

ロジックモデル

座学

ＵＲＡ能力開発
カリキュラム

❸大学全体の研究力強化策の企画・立案支援

研究の各フェーズや研究者の年齢層等に応じた効果的な学内ファンドの設計と評価

RDP由来の学内ファンド

【2017年時点】

成果発信

学内経費　研究大学強化促進事業費

1 [みがき]　英語論文の校閲を支援

約90件の校閲費を支援し、波及効果の高い雑誌に採録

2 [SPIRITS]

国際型及び学際型研究の立上げを支援

100件を超える研究プロジェクト
チームを形成、外部資金獲得へ発展

[分野横断プラットフォーム構築事業]

学際研究の萌芽的アイディアを支援

50件以上の新規の学際研究をスタート

3 [いしずえ]

次年度科研費でより大型の種目に応募する取組を支援

延べ100人以上の外部資金獲得に寄与

[ジョン万プログラム]

在外研究希望の若手研究者を後押し

約90人の研究者を海外に派遣

チーム型

個人型

研究の着想

学内ファンド事例(1): みがき（英語論文校閲支援制度）

▶若手研究者の英語論文の採録率UPを後押ししたい！と考えているURA・事務職員のみなさん

【目的】外部資金の無い若手研究者に対して、充実した英文校閲サービスを提供する

【対象】
英語による論文執筆の経験が浅く、**英文校閲に使用できる外部資金が無い若手研究者**

【手段】
年1回（9月中旬）募集を実施。応募条件を満たす**若手研究者10-15名（予定）**に対し、外部業者による年間を通じた複数回の校閲等の包括的サービスを提供。

【効果】
・英文校閲に使用できる自己資金の無い若手研究者が、論文投稿に向けて充実した校閲サービスを受けることが出来る
・校閲の過程を通じて、英語論文の体系的な書き方を習得

原稿は書けたけど

・英語に自信が無い、、、
・校閲に出すお金が無い、、、

論文投稿するまでの「英文校閲」を支援

採録率UP

- 学術研究支援室（KURA）の URA ・事務職員が実施
- 実績の高い英語論文校閲業者を選定し、年間を通じて複数回校閲を受けることができる制度を構築

掲載された国際学術雑誌の例
Scientific Report（総合分野5位/56誌）、Journal of the American Chemical Society（化学分野10位/157誌）、Cell Reports（細胞生物学分野27位/184誌）

約９０件の校閲を支援

170501

もっと詳しく知りたい方はこちら ▶ http://www.kura.kyoto-u.ac.jp/results/list/6

学内ファンド事例(2)：融合チーム研究プログラム(SPIRITS)

▶ 国際共同研究、異分野融合研究のチーム形成**を後押ししたい！と考えているURAのみなさん**

SPIRITS

SUPPORTING PROGRAM FOR INTERACTION-BASED INITIATIVE TEAM STUDIES

国際化の推進、未踏領域・未科学への挑戦、イノベーションの創出を加速させるため、URAが運営し、国際的・学際的チーム研究を支援する学内ファンド

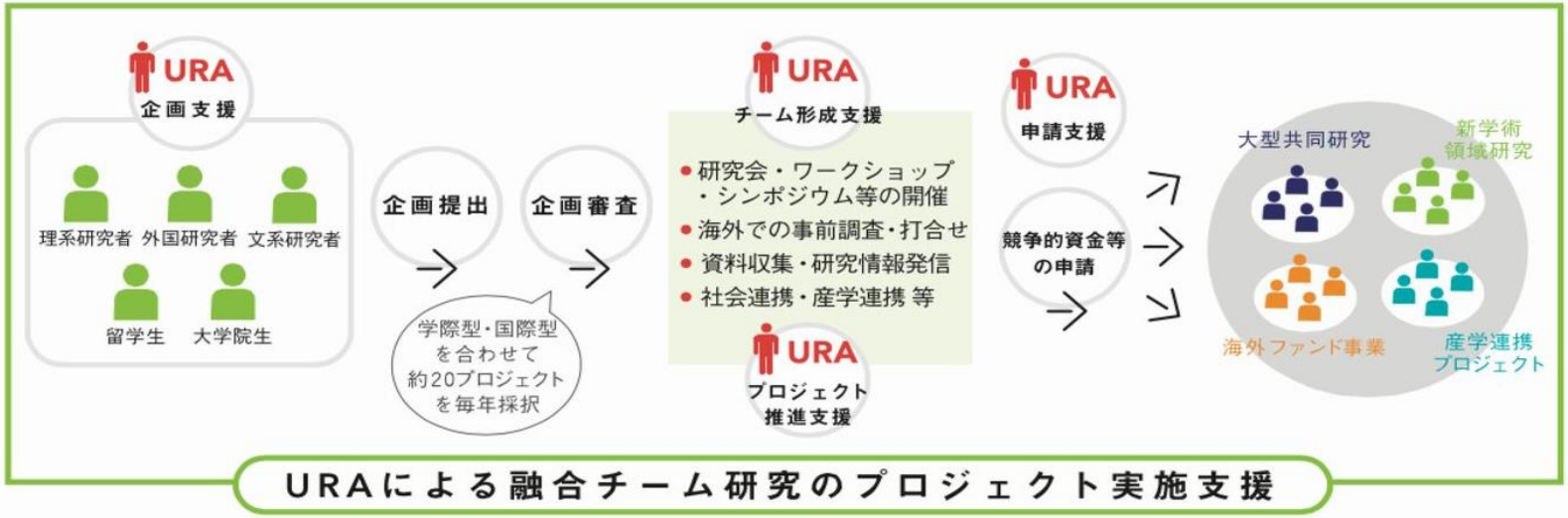
学際型　未踏領域の開拓に挑戦する異分野融合研究チームの形成支援

国際型　海外の研究組織・研究者との新たな国際共同研究チームの形成支援

特徴

○自主財源／補助金のマッチング

○URAによる企画－運営に至る伴走支援



目的①	目的②	目的③
革新的・創造的研究の創出	研究マインドを共有するURAの育成	プロジェクトマネージャー型研究リーダーの創出

もっと詳しく知りたい方はこちら ▶ http://www.kura.kyoto-u.ac.jp/results/list/13

学内ファンド事例(2)：融合チーム研究プログラム(SPIRITS)

現在進行中のプロジェクト

	平成28年度採択	平成29年度採択
学際型	**4** 件	**4** 件
国際型	**12** 件	**13** 件

100 を越えるチーム形成

終了プロジェクトの成果

	平成25年度採択プロジェクトの成果	平成26年度採択プロジェクトの成果
	学際型 **15** 件　国際型 **52** 件（うちトップダウン型 3件）	学際型 **6** 件　国際型 **13** 件
特筆すべき成果	東南アジア研究コンソーシアム（SEASIA）のスタートアップ経費として、ネットワーク拡大、体制整備等に活用。**H27年のJASTIP設置に寄与**	フランスの研究者との間で活発な交流を深め、ボルドー大学を中心とする**CNRSの国際共同ラボ**に採択。
革新的・創造的研究の創出・発展	シンポ、ワークショップ、研究会開催：国際50回、国内34回国際研究ネットワーク形成・拡大：27件、新たな国際共同研究の開始：15件、産学連携開始：6件、MOU締結：4件、特許出願：5件、受賞：13件	シンポ、ワークショップ、研究会開催：国際30回、国内4回学際・国際研究ネットワーク形成・拡大：14件、新たな学際・国際共同研究の開始：9件、産学連携開始：6件、MOU締結：3件、特許出願：10件、受賞：15件 競争的外部資金申請／獲得：38件／29件
PM型研究リーダーの輩出	1,000万円以上の競争的研究資金の研究代表： **3**人（**5**件）	1,000万円以上の競争的外部資金の研究代表： **7**人（**8**件）
研究マインドを共有するURAの輩出	URAによる伴走型支援を実施したプロジェクト数： **21** 件	URAによる伴走型支援を実施したプロジェクト数： **8** 件

もっと詳しく知りたい方はこちら ▶ http://www.kura.kyoto-u.ac.jp/results/list/13

学内ファンド事例(3)：いしずえ

▶外部資金獲得に繋げる学内ファンドを設計したい！と考えているURA・事務職員のみなさん

【目的】 新規性が高く世界的に評価される研究を支援する学内ファンドの礎をURAが構築する

SPIRITS（融合チーム研究）へ発展
外部資金獲得へ貢献

57件の新規プロジェクト企画支援
外部資金獲得へ貢献

研究戦略（学内ファンドの最適化）を
URAが担当

H25:【チーム研究】強化型

新たな技術シーズの創出や国内外の地域社会が抱える課題を解決する学内の研究チーム形成を支援

H26-27:【いしずえ】

新規性が高い研究アイディアをプロジェクト化するための、予備的な実績や必要な体制整備を支援

H28: 新【いしずえ】

若手～中堅層（49歳以下※）の研究者を対象に研究のさらなる進展を目指す取り組みを支援

ステップアップを後押し！

※平成30年度科研費において、これまでに採択された科研費より大型の種目に応募しようとするもの

学内ファンド事業規模
PM力

URA（整備事業）　URA（研究大学強化促進事業）　（研究大学強化促進事業）

- 学術研究支援室のURAと研究推進課が連携して実施
- 年間120件（最大）の応募受付→審査→資金配分（約40件）
- URAが大学研究戦略の学内ファンドをPMとして企画・運営を実施

（H28年度 約40件）
・科研費獲得支援プログラムと連携し、次年度科研費に高採択率で採択
（H25-27年度 全75件）
・いしずえ採択者全員が外部資金に応募、採択は半数以上
・科研費基盤研究Ａ(3件)/基盤研究Ｂ(3件)/ JST-JICA SATREPS(1件)/ JST さきがけ(2件)/ SIP(1件)等採択へ貢献
（H25年度 チーム研究型）
・ある年度の研究戦略・学内ファンドの最適化を通じ、SPIRITSプロジェクト定着

20170501

100人以上の外部資金獲得に寄与

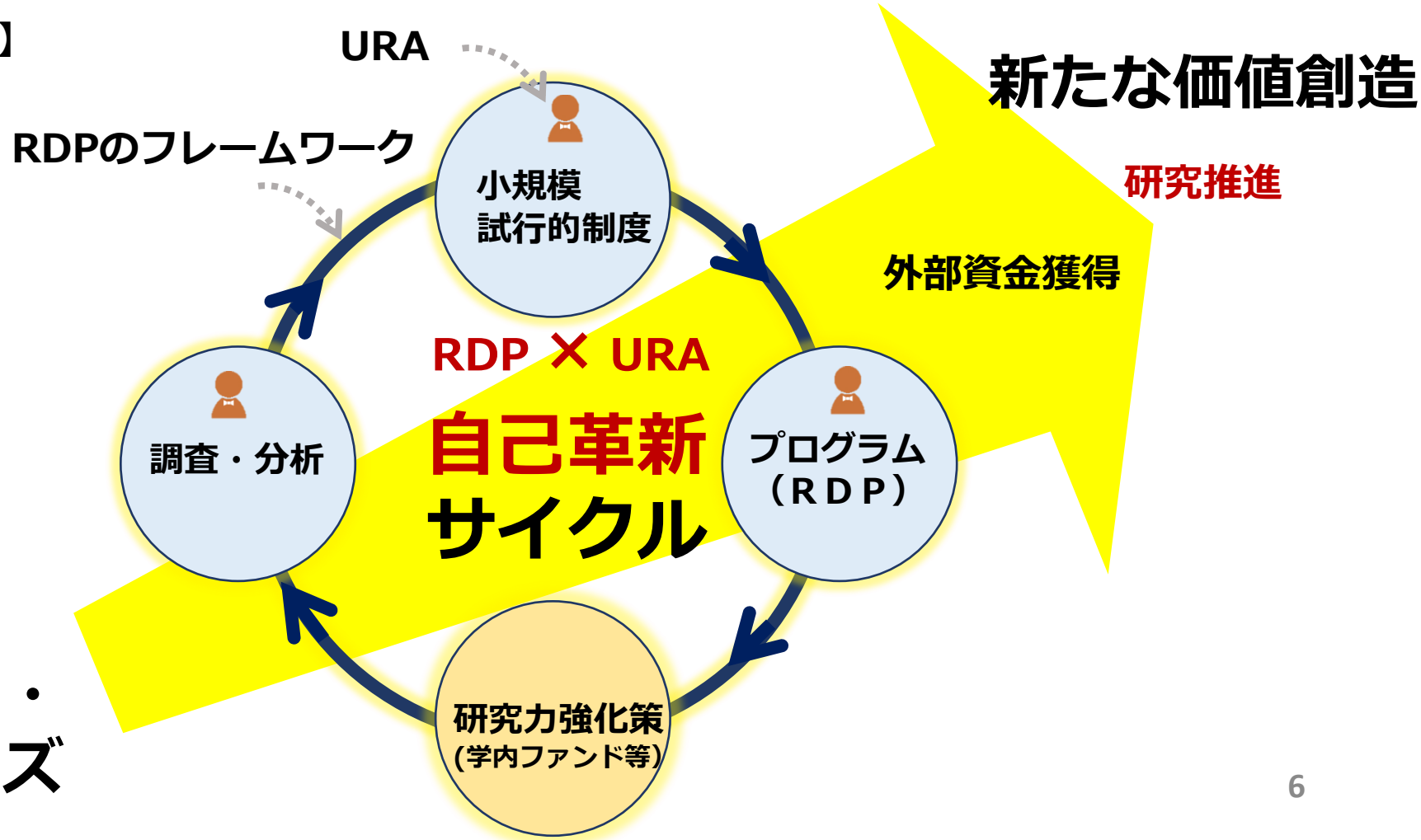
もっと詳しく知りたい方はこちら ▶ http://www.kura.kyoto-u.ac.jp/results/list/5

RDPのビジョンとアクション

【ビジョン】

RDPは変動する社会動向・学内ニーズに適合した研究力強化策を生み出し続ける自己革新サイクルとなる。

【アクション】



変動する社会動向・学内ニーズ

京大の１０年後の姿をイメージして

達成済

RDPの基本業務プロセスの確立

2012

URA

2017

URA　事務部（研究推進課）

達成済

研究推進課（事務部）と継続的な協働業務の確立

SPIRITS, 「いしずえ」構築等

目標（５年後）

学内複数の事務部、関連支援組織との継続的な協働業務の構築。

例：国際、産官学連携関係等

2022

事務部(複数)

目標（10 年後）

海外機関（FA, 大学）を含む国内外他機関との継続的な協働業務の構築。

例：戦略的パートナーシップ機関等

2027

海外機関
（FA, 大学等）

国内他機関
（FA, 大学等）

大学の発展

学術研究支援業務の高度化と自己革新を促進する大学のガバナンスが強化される